

産業都市八戸とその人づくり

—— 産業の進展と教育 ——

戸 田 金 一*・高 橋 康 造**

A Survey on the Relationship between Education and Industry in Hachinohe —— The Development of Industry and Education ——

Kinichi TODA* and Kozo TAKAHASHI**

Abstract

Hachinohe is one of the cities which has made a conspicuous progress in every respect since World War II. We can easily be informed of this progress when we take a glance at the rapid increase of its population only. In the process of this development the man powers demanded by the industrial sector in Hachinohe has been supplied by the educational one to a high extent. We have been making researches on how the students of the technical high schools decide their new lives after graduation, esp. where they get their jobs. We have found that they find work in the local companies at high rate.

Keywords: education and industrial area, education at Hachinohe city

1. はじめに

1.1 研究の意義

(1) 東北教育学会における先行研究の評価

東北教育学会は、1962 および 63 年の両年度にわたり、文部省科学研究交付金(総合研究)をえて「東北地方における産業教育の現状と課題—特に産業構造の変化と関連して—」の共同研究に取り組んだ。当時国立東北 6 大学の教職専門担当教官 40 名の当初参加をみた一大研究事業であった。その成果は 1965 年に同会編『東北地方における産業教育の現状と課題』(第一法規)の刊行へと結実した。

この研究作業は、大きく「産業構造と教育班」と「学校その他の教育機関における産業教育班」

の二つに分けて進められた。両班にまたがるメンバー 3 名の他 48 名、計 51 名が執筆に参加した。調査研究段階では、この人数を上回る規模に膨れ上がっていた。

この大規模な共同研究において、本論と直接関係のある部分がある。それは「第一編 社会編 第 1 部 六県における実態——事例研究 第 1 章 産業都市としての青森県八戸市」である。石崎宣男と横山弘一弘前大学が執筆している。

八戸市の現地調査が研究作業の一環として行われた。これには戸田も参加している。そのために石崎たちのエネルギーな資料の収集と、それに基づく緻密な分析や討議検討を実行している。いま 30 年余を経て再読したのであるが、改めて高い学術的評価を与え得る業績として、敬意を表したい。

平成 9 年 10 月 15 日受理

* 総合教育センター・教授

** 総合教育センター・助教授